

平成28年度「地域に学び・語り継ぐ キャリア教育」(小学校)推進事業のまとめ

1 活動実績

- (1) 実践小学校数 : 17校 (17市町村)
- (2) 参加児童数 : 2,128人 (「地域に学ぶ場」への参加)
(高学年: ※一部小規模校では下学年を含む)

2 「地域に学ぶ場」後のアンケート結果

- (1) 児童 (回答数: 2,128 ※回答児童は、5・6年生が中心)

アンケートの内容	そう思う	おぼろげそう思う	あまり思わない	思わない
1 体験や講話から講師の「思い」を知ることができた	66.5%	30.0%	2.9%	0.6%
2 働くことの苦勞や大切さを学べた	76.7%	21.1%	1.8%	0.4%
3 将来、働くことが楽しみになった	44.9%	38.3%	13.2%	3.6%
4 今回のような講話を聞いたり体験活動をしたい	59.1%	31.3%	7.5%	2.1%

- (2) 講師 (回答数: 104)

アンケートの内容	そう思う	おぼろげそう思う	あまり思わない	思わない
1 小学校段階からの体験活動や講師から話を聞くことは、働くことへの意欲を高めたり、働くことの大切さを学んだりするのに有効であったか	90.4%	8.7%	0.9%	0.0%
2 子どもたちは、体験活動に意欲的に取り組んだり、集中して話を聞いたりできたか	92.3%	7.7%	0.0%	0.0%

3 「語り継ぐ場」を終えて

- (1) 上級生児童 (語り継いだ側 回答数: 1,941)

アンケートの内容	そう思う	おぼろげそう思う	あまり思わない	思わない
1 下級生に語り継いだことは自信になったか	44.4%	43.0%	10.4%	2.2%
2 将来の職業や自分の生活を考えるきっかけになった	42.5%	35.7%	17.9%	3.9%

- (2) 下級生児童 (受け継いだ側 回答数: 2,075)

アンケートの内容	そう思う	おぼろげそう思う	あまり思わない	思わない
1 自分も体験活動や講話を聞いてみたいと思った	63.1%	29.8%	5.6%	1.5%
2 これからの自分の生活を考えるきっかけとなった	45.0%	41.0%	12.5%	1.5%

4 成果と課題 (児童の感想、事業実績報告書より 主な意見)

- 働くことは、辛く嫌なイメージばかりあったが、製菓業の講師の方から仕事のやりがいや夢を聞いて、働くことに強いあこがれをもった。
- 壁塗り体験では、同じような手の働きをしても少しでも手加減が違えばきれいさが違ってくるので難しかった。体験をしているときに肩や手首が痛くなり始めたので、これこそ職人さんが仕事をしているときに感じる痛みなのかと思った。職人さんたちは永年の経験や苦勞などの上に工夫を積み重ねて仕事を続けてきたことが分かった。
- 福祉の仕事は感謝してくれる人がたくさんいて、とてもやりがいのある職業だということがわかった。福祉の仕事に就きたいと思っていたので、さらに楽しみになった。
- 子どもたちは講師の先生の思いを詳しく聞くことができ、自分の将来を見つめる機会につながった。
- ▲ どの学年も積極的に体験に取り組む姿が見られた。ただ、振り返りの作文では、仕事の苦勞についての内容が多かった。仕事の大変さばかりでなく、仕事の楽しさややりがいを学ばせることも児童に夢を抱かせるために大切であると感じた。
- ▲ 来年度に向け、体験全体を見直し、体験時期や引率等指導する体制づくりと内容などを見直し、計画的に実施する必要がある。また、小学校と中学校の職業体験の違いを明確にし、連携を取っていく必要がある。